

# 京大「統合創造学」創設へ

## 社会の諸問題 解決策探れ

京都大で、社会で起こっているさまざまな問題を見つけ、その解決策を探る新たな学問「統合創造学」を生み出すプロジェクトが進んでいる。ゴリラの研究で知られる山極寿一京大総長、解剖学が専門の塩田浩平滋賀医科大学長、経済学者で4月に京都大学長に就任する篠原総一郎京大教授ら多彩な分野の研究者が集まり、従来の科学の枠を超えた理論の構築を目指す。

現代社会は、政治や経済、環境など多様なシステムが複

経済、宇宙物理、社会学…

## 従来の枠を超えた理論

雑に絡み合う。研究代表者を務める村瀬雅俊・京大基礎物理学研究科准教授によると、これまでは経済など一部のシステムの効率化や最適化を図ってきたため、逆に他のシステムへの負荷が増大し、全体が破綻する危険性が高まっているという。東京電力福島第1原発事故もそうした状況の中で起きたとみている。

プロジェクトでは、想定外の事態が起きても全体が破綻しない柔軟なシステムをつくる基本原則や理論を考える。従来の科学では与えられた問

題を解決する研究が主流だが、統合創造学では、何が問題かを探り、その問題が起きるメカニズムの解明を目指す。

メンバーには、経済学者の西村和雄・京大名誉教授や宇宙物理学が専門の柴田一成・京大教授や社会学が専門の高田公理・佛教大教授らも参加する。シンポジウムや学会の開催などの活動を続けており、今後は海外の研究機関との共同研究も行う予定。

村瀬准教授は「市民協働型のプロジェクトとして、芸術やものづくりの分野にまで学問の領域を広げていきたい」と話している。

(松尾浩道)